

絵手紙サークルの活動

徳丸 近藤千春

私たち東公民館絵手紙教室は、1993年に公民館活動としてスタートしました。数年後、自主的な運営になりましたが、現在は19人の会員が、大内節子先生を中心に楽しく制作しています。

毎年4月にお世話係や年間計画、年会費などを話し合っています。今年度は、人物、石手川公園のスケッチ、うちの暑中見舞い、ダンボール絵手紙、竹かごに絵手紙をはるゴム印作りなどを計画しています。

個人的には、入院中の方へお見舞い、遠くの友人に近況報告や年賀状、孫に誕生祝い、お悔やみ、季節の物をいただく



いたお礼状にちよつと絵を添えて：世界に一枚しかない手紙は、それぞれに味わい深く喜ばれているように思います。今年から月2回にしましたが、多忙な方は1回だけ参加しています。毎月第2・第4月曜日13時30分から15時30分の間です。文化祭の後には茶話会、年度末の3月には反省会、次年度のことを決める食事会などもしています。

私は東公民館の雰囲気と仲間がとても好きです。自由に意見を述べて根に持たない。それぞれに自分の作品らしさを保ちながら、友の作品について論じ合い、その連帯の中で、また制作意欲が湧いてく

るのです。時には爆笑が起るような評をする仲間がいて楽しいです。例えば、新緑の庚申庵に立っている2本の野点用の赤い傘を私が真紅に塗ってしまった自分でも泣きたい気持ちだった時、すかさず「毒きのこみたい。」とピッタリの評をしてくれた友に「うまい!!」とうなったものでした。



▲和気あいあいの制作活動

これからは、少し離れてながめたりしながら、調和のとれた色づけをしようという肝に銘じたものです。私はこんな仲間がいるこの教室が好きです。

公民館活動から

松前小学校 小笠原 義

私は、ふとしたことがきっかけで、17年間にわたり、町内の三つの公民館で、歌（カラオケ）を通して住民の方々と触れ合いをさせていただきました。すべて私より年上の方々の集まりで、週一回のレッスン。一人ひとりが皆さんの前に立ってマイクを持ち、課題曲を歌います。そして一人ひとりに拍手を送り、次は私のつたないコメント。笑いあり、緊張感ありの実にいきいきとした元気印の公民館活動でした。

生まれます。見栄や体裁といった雑念を乗り越えて、人間味と同じという、あったかいものができるのです。懇親会や遠足などで歌の話題以外にも、その方の生きざまや、病気のこと、家族のことなど、心を開いて語り合うことができ、とても幸せでした。もう他界された方が数名いますが、その方の歌と人となり私の心に深く刻まれています。

ここで私は、二つのことを実感しました。一つは「人間みな違う」ということです。顔形が違うように声質や歌い方もみな違います。同じ方の歌でも前回と今回とは微妙に違うのです。この教室の方々は、違いに気づき、次へのステップに結びつけていくのです。その学ぶ姿勢と意欲に私自身、活力をいただきました。

このように私は、公民館活動を通して「人は人から学ぶ」大切さを教えていただきました。違う部分を認め合ったり、同じ部分を共感し合ったりする中で、人間関係が培われていきます。人権教育は生涯を通じて学んでいく自己啓発教育です。前述の例のように、地域の公民館では人を人として大切にしながらともに生きようとする営みがされています。家庭、学校、地域社会が相重なり合って、明るい人権の町づくりに参画しましょう。それぞれの立場で、足元を見直してみませんか。

二つめは「人間みな同じ」ということです。違いを認め合う集団には輪（連帯性）が